

ムツトゲイセキグモ *Ordgarius sexspinosus* (Thorell)

【選定理由】

県内の確認地は 6 市 8 地域で、いずれも単独や数個体である。

【形態】

体長雌 8~10mm、雄 2mm 前後。雌の頭胸部は濃褐色で、尖った 2 本の突起が縦に並び、後方に 4 突起が横に並ぶ。腹部背面は黒褐色で白い網目模様がある。その両肩は隆起し、その上に小突起がいくつか見られる。後端にも 4 個の突起がある。雄は小さく、体色も一様に黒褐色で別種のような印象を受ける。



常滑市菅場, 2016 年 7 月 5 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

名古屋守山区・千種区、常滑市菅場、豊田市琴平町・本新町、知立市西中町、豊川市音羽町、新城市門谷・日吉で確認された。どの地域においても、個体数は単独か数個体である。

国内では、本州（関東以南）、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

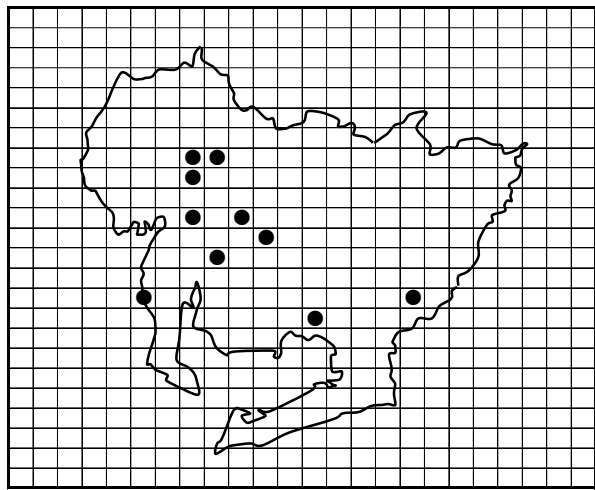
【生息地の環境／生態的特性】

生態はマメイタイセキグモとほぼ同じで、日中はクワなど広葉樹の葉の裏に静止し、夜間に活動する。第 2 脚の先端に数個の粘球の付いた糸を釣り下げ、それを回転させて蛾の仲間を捕獲する。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数の少ない希産種である。散発的に発見される程度で、減少の要因は不明である。

県内分布図



【保全上の留意点】

発見地の環境を変えないような努力が必要である。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. pp.83,217. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.112. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.165. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.429,623. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.189,518. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)